

屋の箕面温泉を経営されておられたが、廃業と共に称号をスパーランドに譲った。軒下に洗い場の「箕面温泉」と記したタイルや洗い場の溝石も保存されていた。一同箕面の歴史の一端を伺い、感銘を受けた。門前の釣瓶は、現在も使われている井戸で、山の上にもかかわらず、浅いことに驚いた。(水脈が予想外に浅い)役行者が開いた大聖歎喜天の祀られる西江寺境内に聳える樅と山桃の指定樹木を仰ぎ見て大きさに改めて感動した。



滝道を辿り、昆虫館手前の箕面断層がはっきり判る露頭を見学し、山を越えて如意谷オケ原へ続いている。次いで、森秀次の銅像を見る。あまり関心なかったが、森氏が箕面公園誕生に尽力されたことを、説明文で知った。



明治時代に建てられた3階建ての旅館、橋本邸を眺め、滝道の歴史を忍んだ。滝道を下りスパーガーデン入口に

枝を抜ける樺、粗樫を鑑賞する。スパーガーデンは改装中の間もなく新たな姿で開業される予定。

駅へ向かう右手に料亭「箕面つるや」跡に建ったマンションの奥に、大きな樺、南隣に西川家の樺が新緑に覆われていた。箕面川に面したマンションの通路から眺めると、心地よい川風がほほをなでる。通路を抜



けると平和台へに道に出る。角の寒山寺の塀際に大きな樺が太陽を一杯受けていた。他に寺内にも



樺の老木が指定樹木となっていますが、幹が朽ちて倒木の危険性があり、近く切り倒される見込みだそうで残念です。

川沿いを美しいピンクの壁、天然スレートで葺かれた

洋館建ての高橋邸(箕面市都市景観形成建築物)を眺めて下り、巡礼道の仰箕橋を渡り、正法寺を訪れる。境内には庭園がしつらえられ、指定樹木の秋楡が二層の塔の前に悠然と立ち、川沿いの墓地の塀際に榎・樺が聳えていた。初夏に箕面川で育った蛍の幼虫が、塀を這い上り木々の根元に潜って成長を続け、羽化して幻想的な光の乱舞を見せてくれる。手入れの行き届いた境内の散策し解散した。





まちなみウォッチング 第74回

粟生間谷から帝釈寺、バラ園、白鳥

2013. 5. 18

街並みの中の指定樹木を訪ねて散策(東部北コース)

ウォッチングコース

歩行距離 約6.5km

阪急バス間谷住宅2 B/S → 粟生幼稚園のメタセコイヤ(園長の説明) → 法泉寺の黒松(見学・住職の説明) → 五字神社の榎、梅檀 → 野間家(庭拝見) → 天満宮の棕 → 楠木神社の棕 → 五字神社の山桃、粗榿 → 帝釈寺の山桃(休憩) → バラ園(鑑賞) → 為那都比古神社の山桃 → 印藤家の榎 → 萱野中央(解散)

粟生幼稚園の園庭に聳える3本のメタセコイヤを眺めながら、園長(法泉寺住職)から、樹にまつわるお話を伺った。幼稚園が開園した頃、子供たちの思い出になる木として植えられた。木の成長と共に子供の遊具となった。幼い子供の木登りを危ぶむ人も多いが、よく教えれば工夫して木に登ったり、降りたりしてこれまで一度も事故は無い。幹には子供たちの遊んだ歴史が刻まれていた。



続いて、法泉寺の境内へ移り、指定樹木の m クロマツを鑑賞する。大きな枝が伸びて手入れが行き届いて見事な松だった。住職から寺の歴史のお話を伺う。庄屋吉田太郎衛門が、村の



飢饉を救うため直訴し磔になった。村人が徳を偲んで秘仏を造り寺に祀った。住職が観音像の胎内に収められた庄屋の姿を見せて説明された。参加者はカラクリに感動した。

西国巡礼道を通る。青面金剛と地藏さんが並んでいる。笑面の各集落には青面金剛が点在し、庚申信仰が広く信じられていた。さらに粟生で義太夫語りの弟子を育てた「竹本直太夫の墓」が建っていた。

五字(ごあざ)神社には、榎、梅檀、棕、榿、粗榿の大樹の樹林が、狭い神域にひしめくように茂っている。山之口の産土神として祀られてきた。木陰で一息入れて、中村集落の「南無阿弥陀仏」と彫られた六字名号碑で巡礼道に復する。沿道の野間家を訪ね、かつて庄屋も務めた旧家のお庭を拝見する。往時は手広く田畑を作っておられたそうだ。

天満宮の指定樹木の大棕が迎えてくれた。枝が伸びて周囲が日陰となるので、一部枝を落とされ



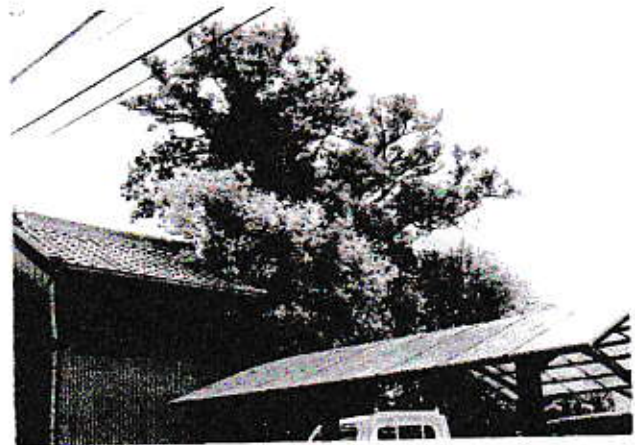
たが、堂々とした姿は中村の氏神として崇拝されている。

茨木・能勢線脇に楠木神社の小さな祠が、椋の大樹が覆い被さる様に立っていた。落雷で傷ついた幹も、樹勢を盛り返していた。この社は栗生の総社素盞鳴尊神社の祭礼の御旅所となっている。

昭和40年代に造られた栗生第二団地を抜ける。棟と棟の間隔がゆったりとして、緑豊かな空間を形成しているが、エレベーターの設置が無く、高齢化社会を迎えて、人々の暮らしに支障を来している。程なく五

字(ごじ)神社に到着する。境内に山桃、粗樫がある。当初帝釈寺の鎮守神として寺の境内に祀られたものだそうで、栗生外院の人々が当番で清掃されている。

皿池公園を経て、帝釈寺の山門を潜る。本堂の前に樹形の美しい山桃の大樹を鐘樓のベンチで眺めて休憩する。寺は勝尾寺別院で「外院」の地名の因となっている。境内の枝垂れ桜も、枯死の危機を克服し、再生の若葉を伸ばしていた。



近くのバラ園に立ち寄る。いろいろの種類バラが花を付け、甘い香りを漂わせていた。造園家に依頼して作った個人のバラ園で、規模は小さいが手入れが行き届き、手軽に鑑賞できる。参加者はカメラでお気に入りのスナップを撮っていた。

外院公園、尺下池の畔を経て為那都比古神社に到着する。1,700年以前の「為那国」の中心地で、氏族の守護神として祀られた歴史ある神社です。手水舎裏に指定樹木の山桃がある。幹が5本に分かれていますので、通常山桃と異なり気付きにくい。境内には日露戦争で発射された2発の砲弾が奉納されている。

石丸から千里川を渡って直ぐ左手の印藤家に大きな樫が枝を抜けている。指定樹木が、屋敷内に残っている例は珍しが、落ち葉で樋を詰めたり、日当たりが悪くなったり、庭が狭くなるなど、家人のご苦勞も多いと思われる。その意味で貴重であり、ご家族の協力で長く保存されることを祈る。

まちなみウォッチング 第75回

半町、瀬川、桜ヶ丘の樹木

2013. 6. 15





街並みの中の指定樹木を訪ねて散策(西部南コース)

ウォッチングコース

歩行距離 約 3.6km

阪急桜井駅 → 旧線路跡の小道 → 半町集落(新発見) → 自動車教習所 楠、棕(眺望) → 梶山家の榎 → 箕面川、石澄川合流点の梅檀 → 瀬川神社の粗榿、山桃、赤松(休憩) → 荒木家の榎 → 澤村家の大王松(往時の暮らしと大王松の説明を伺う) → 住野家の榎、棕、イロハ楓 → 桜井駅(解散)

桜井駅から旧線路跡の小路を進むと、トタン葺きだが**藁屋根の民家**が見える。建物の更新が進み、藁葺き屋根の民家は、市内で数軒しかなくなった。ひっそりと残っている姿が懐かしい。また、右手の屋敷塀の瓦



に「**鯉の滝登り**」がデザインされていた。細工瓦もだんだん減少し、貴重な景観を醸し出していた。

西国街道を西に進み、自動車教習所の休憩所に入る。窓越し



に教習コースの高さ 17,18m の榎と棕が見える。目を西に転ずると、柵外に2本の榎も見える。この教習所は宝暦年間に整備された**半町本陣跡**で、本陣の敷地が非常に広がった様に思えるが、古い絵図によれば、これらの大樹は

箕面川に面した傾斜地に在ったと推定される。

瀬川との境の小路を辿る。此処にも瀬川本陣が在った。本陣が隣り合わせに在る例は珍しい。願正寺横を経て、先に教習所から見た榎の根元に到着し、幹に触れたりして大樹のいのちを感じた。



箕面川と石澄川の合流点に在る、



梅檀の大木が目に入る。護岸が崩れる恐れがあり、管理する土木事務所が切り倒すことを計画したが、保存を望む声が起こり、取敢えず枝を切って樹勢を抑制し、様子を見ることになった。

瀬川神社の境内に入る。鬱蒼とした森を想像したが、空が大きく開け清掃が行き届き明るい。奥の鳥居の右脇に粗榿、山桃、赤松の指定樹木があるが、